

リンゴ「ふじ」頂芽の障害は夏秋季にも発生している

福島県農業総合センター 果樹研究所 栽培科

1 部門名

果樹－リンゴ－栽培

2 担当者名

渡邊善仁、遠藤敦史、南春菜、三田村諭、佐久間宣昭

3 要旨

リンゴ「ふじ」の頂芽形成は、収量・果実品質、結果枝の確保に関わっている。しかし、近年、頂芽形成不良が散見されている。これまで、頂芽障害は冬季の低温や春季の降霜、低温による影響だと考えられてきたが、夏季から秋季の頂芽形成期にも障害が発生していることが明らかになった。

- (1) 頂芽障害は頂芽形成期である8月から発生がみられ、頂芽形成終期である10月には発生程度、被害度が増加した(表1)。
- (2) 頂芽障害の発生は、斜立枝、下垂枝に発生がみられ、徒長枝には発生しなかった。また、発生程度は斜立枝に多く、主枝の中間部、先端、主幹付近の順であった。下垂枝の発生部位に差はみられなかった(データ省略)。
- (3) 冬季せん定前に、花芽分化率の確認と併せて障害発生状況にも留意する。



図1 頂芽の障害程度

表1 頂芽障害の発生頻度

品種	時期	部位	種類(個)		障害程度(個)					障害割合(%)
			花芽	葉芽	0	1	2	3	4	
ふじ	8月	斜立枝	16.0	13.0	15.7	8.0	3.3	1.3	0.3	45.7
		下垂枝	5.0	16.0	12.0	8.0	0.7	0.0	0.0	41.9
	10月	斜立枝	15.7	10.7	13.7	3.0	4.3	4.3	1.0	48.1
		下垂枝	18.7	3.7	9.0	4.7	5.3	3.0	0.0	59.0

注) 1区1樹3反復、50頂芽/樹とした。

注) 障害程度は、0:正常～4:枯死まで5段階で評価した。

注) 障害割合は、被害があったものをカウントした。

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和元年～令和2年度
- (2) 研究課題名 果樹の安定生産を支援する生育予測技術及び生育障害対策技術の確立

5 主な参考文献・資料

農文協, 農業技術体系, 果樹編, 第1-2巻, リンゴ.